

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202197		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家 広田		
所在地	長崎県佐世保市広田3丁目9番1号		
自己評価作成日	平成29年7月5日	評価結果確定日	平成29年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 大豆食品や野菜、海藻、いも類を中心とする食事を目指し、成人病にならない工夫をしている(血液がさらさらになる食生活) 東翔高校や三幸福祉カレッジ、こころ医療福祉専門学校、ルリ総学園の実習場として次世代の介護を担う若者達の育成に力を注いでいる。 高齢者に対して尊厳の気持ちで接し、「入居者が主役・スタッフは脇役」の精神で、温かい思いやりのある介護を目標に、運営理念である「夕暮れ時にも輝く人生」を大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づいて毎月標語を作り、スタッフ全員が判りやすく、取り組みやすい支援ができるよう工夫している。互いに声掛けをし言葉遣いや尊厳ある日常を支援している。スタッフと入居者が同じテーブルで食事をし、洗濯物を干したり畳んだり、庭にある野菜を収穫したり、入居者の隣には常にスタッフの優しいまなざしがあり、家庭的な生活を過ごしている。各学校の実習や職場体験を積極的に受け入れ、若い介護の支援育成にも貢献している。看取りも積極的に行い看護師や介護スタッフの連携やスタッフ全員が安心して支援ができ住み慣れた環境で人生の最後を迎えられる環境を整えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は職員が目に入る場所に掲示されている。介護上の問題が生じた時は運営理念を振り返って理念に沿うようなプランを立てている。	理念をもとに標語を毎月作り入居者の支援をさらに細かく行う環境を整えている。入所者の声掛けは乱雑にならない用にスタッフどうしが注意をしあい意識付けを高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物などで積極的に地域に出かけている。近隣の方々からも声をかけていただく機会が増えている	自治会に入っており、日常的に回覧板のやり取りがあり、情報交換も常に行っている。地域の清掃活動に参加したり、近隣の方々ともふれあう機会を多く作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解支援の方法を地域の人々に知っていただく機会は現段階では設けていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、家族・民生委員・町内会長・包括代表者など広く参加していただき、ホームのよき理解者としてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議の中で具体的な意見を出し合い、入居者の楽しみにつながる外出先を紹介してもらったり、家族からの要望に対応している。包括や行政の参加もあり積極的に意見を取り交わしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム家族で問題解決が出来ないときは、地域包括が間に入り調整していただいている。	車で5分程度のところに地域包括センターがあり、日常的に相談しあえる関係がある。家族がいない入所者の看取りの対応に行政も積極的にかかわってもらいながら支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外への徘徊する利用者数名おられるが、玄関の施錠は行わずチャイムの設置をし、個人においてはご家族の承諾を得てGPS装着を行い、入居者の安全に努めている。	日中は施錠をせず入居者の権利を守りながら生活を支援している。徘徊がある方の支援は家族やスタッフ、地域、行政ともに連携して環境を整えている。身体拘束の研修も定期的に行いスタッフの意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内で虐待防止委員会を設置し、朝礼時に虐待防止標語の唱和を行い、再確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度利用の必要な方はおられないが、研修会があれば職員も参加できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要事項説明書の説明に時間をかけて納得した上で、サービスの提供ができるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のご家族が意見要望を出しやすいように玄関先へ意見書を設置、またケアプラン変更時にもご家族から聞き取りをし、それを入居者のケアに反映させている。	家族にアンケートを取り意見を確認し、(年1回)報告する状況があれば個別で電話連絡をしている。担当者会議にも出席を依頼し意見が言いやすく入居者の生活の向上や安らぎにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングにおいて、意見提案を出し合い反映させている。急を要する場合はその都度話し合いの場を設けている。	管理者とスタッフ一人ひとりが意見が言いやすい環境を整えている。業務の手順等工夫しより良い介護ができるよう日々向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人は自己評価表を記入し提出することになっている。社内外での研修会、地域研修会への出席。本人の課題努力を把握し、個々の目標設定に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる共通の知識や技術については、人員確保が出来る時間帯に積極的に機会を作るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者と研修発表会等での事前会議の話し合いでの交流。昨年は地域ミニバレーボール大会打ち上げや、反省会での会においての交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時でのご家族等よりご本人が少しでも不安にならないような対応が出来るように留意している。入所後は環境が大きく変化する為、多くに関われる環境に適応できる様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時ご家族が抱えている不安や悩み、施設に対しての要望思いを持っているか可能な限り理解し支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後においてもヒアリングを行い、ご本人・ご家族を支援していく上で必要に応じて社会資源が有効に使用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状態にある「人」が生活を営む姿を支えることがグループホーム職員の「責務」だということを、共通の認識とできるように努め、一方通行の支援にならないように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況を踏まえうえで出来る限り協力して頂けるような関係となるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望がある場合ご家族ご兄弟へ電話での連絡を取っている。進物品等が届いた時は、電話連絡にてお礼を言っている。関係が途切れないように努めている。	毎日来る家族も暖かく迎え入れ、出入りがしやすい雰囲気がある。なじみのラーメン屋にスタッフと一緒にいたり、要望があれば墓参りに同行したり支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る方が下膳の手伝い、テーブル・お盆・食器拭きなどを行う。散歩等では車椅子を押して頂くなど、助け合える瞬間を大切にしたい支援が行えるような環境が整えられるよう意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからは、事業者側から取組みはやっていないが、ご家族からの要望があれば相談や支援に対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人が心地良い生活」ということを考えた支援を心がけ、意思表示が困難な方に対してはその方の性格や生活歴その他ご家族から得た情報を踏まえ、本人主体となれるような関わりがもてるように努めている。	日ごろの生活の様子や会話から、入居者の希望や意向を汲み取っている。会話での聞き取りが困難な場合には、家族からの情報や本人の表情を見ながら問いかけを行い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階だけでなく、継続的に生活歴等の情報収集をこまめに行えるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、排泄入浴等を通して心身状態をチェックしている。本人の意思を確認しながら無理強いのないような生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者ご家族、意思疎通可能な利用者とケアプランの見直しを行っている。現状に即した介護計画を作成している。	入居者の各担当スタッフが、モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。介護計画をケアプランチェック表に落とし込み、スタッフが介護計画を共有できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記については細かく記入、詳しく伝わりやすく記入するように努めている。職員ミーティング時議題に取り上げ、よい支援ができるように検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアグループ等が同事業所系列に來所された時は、一緒に参加させて頂く。外食や遠足などの気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへ買い物や公園への散歩時に近隣の方と会話を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には家族にここ数日の経過を説明し、家族了承のもと受診している。	希望により、入居前のかかりつけ医への通院も行っている。家族が、通院に付き添えない場合には、スタッフが同行し、受診前と後に、家族に電話で報告している。内科の協力医による定期的な往診があり、安心して過ごす事ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が3人勤務しており、何かあれば看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特定の病院へ入院とは限られないが、早期退院へ向けて面会に行き、看護師と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と連携し症状をスタッフ全員が把握しその都度ご家族に連絡して方針を早めに決めるようにしている。	入居時に”重度化した場合における対応に係る指針”に同意を得ている。医師の診断により、重度化した場合には再度、説明を行い”看取り介護についての同意書”を得ている。スタッフは看取りについての研修、勉強会を行い、夜間時の対応にも近くの職員や看護師の協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回心肺蘇生の講習や他講習に参加し、看護師や消防署職員に指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p> <p>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>年に3回避難訓練を実施し、防災の研修や防火設備チェック表にチェックしている。</p>	<p>火災を想定した避難訓練を年3回行い、水害等の災害を含む避難訓練を、年1回行っている。また、1年に1回、本社合同の防災研修を行い、研修報告は、職員間で回覧し、共有できている。</p>	<p>避難訓練計画や実施記録等の書類の保管について、いつでもスタッフが見やすいようなファイルの工夫と整備の検討を行うことを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を保つために、毎朝唱和を行い意識できるように努めている。	特に、入居者への言葉づかいは、職員間で注意しあい、丁寧な言葉で接するよう心がけている。入浴時や排泄時には、プライバシーの確保に努め、ドア、カーテンを閉める等を行っている。スタッフは、入職時に誓約書を交わし、守秘義務を徹底している。また、社内研修や外部研修に加え、近くのグループホームとの連絡協議会において、不適切な対応についての勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に従い買い物や散歩をできる範囲で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでテレビを観られたり、居室へ戻られたり自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが散髪や爪切りをおこなう。自立された方は自ら衣類を更衣される。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜中心の食事であまり残されていない。テーブル拭きや、お盆拭き、コップ洗いをして下さる。	その日の担当スタッフが、冷蔵庫にある食材を使って、調理し、家庭的な食事の提供を行っている。入居者とスタッフが同じ食卓を囲み、楽しい食事の時間となるよう、支援している。入居者も、皮むきや野菜切りなどの下ごしらえを行ったり、下膳や食器洗いを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分を控えたりトロミをつけたりミキサー食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は歯磨きの見守り、介助の方はスポンジを使用しみがき残しがいないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄を支援している。	排泄チェックリスト表により、入居者の排泄リズムを把握し、日中はトイレでの排泄が行えるように、声かけを行い、支援している。失禁した場合には、周囲に気づかれないよう、居室にて着替えを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維の多い野菜中心にしている。運動をし、散歩に行くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って入浴ができるように支援を行っている。	入浴は個別で支援し、スタッフとのコミュニケーションをとる機会となっている。週2回以上の入浴が行えるよう、拒む入居者にも声かけのタイミングを工夫し、支援を行っている。希望により、同性介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて支援をしている。冷暖房を使用し、安眠を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルにし、職員全員が目を通している。変更があった時も周知を行い、誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに出来る事をしていただいている。買い物掃除など役割を持って生活していただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外食、動植物園遠足など外出支援を行っている。	食材の買い物に、入居者と出かけたり、車椅子の入居者も、日々の散歩を積極的に行っている。入居者の希望に応じて、墓参りや外食などの外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは本人が買い物に出かけ、自由にお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りを自由に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や温度、湿度に気を配り、快適に過ごせるようにしている。	共有スペースのリビングは、入居者のお昼寝の時間を利用して清掃を行い、清潔で心地よい空間となるよう心がけている。花を飾ったり、入居者が製作したものを飾るなどして、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭いので座席の配置やソファなどを利用し、快適に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋は個人の好きな物を持ち込みして頂き、居心地の良い空間になるよう工夫している。	各居室に備え付けのベッド、エアコンがあり、光が入る明るい居室空間となっている。家具や位牌など、入居者の希望の物は、部屋に入る大きさの物であれば、持ち込みに対応し、快適に過ごせるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや案内板を設置し、自立でき安全な生活が出来るような環境づくりを行っている。		